

読解力について

いつの時代になっても、学力の基本というのがあります。それは「読み、書き、計算」。この三つは、社会人として生きていく上での基礎です。また、昔から、国語、



【タブレットで意見交換】

特に読解力は他教科の学力向上において重要な要素であると言われてきました。小6・中3年生で毎年実施している全国学力調査の問題を見ると、膨大な情報(文章のみならず写真、図、表等の資料)から出題されており、解答するためには読解力が必須となっています。

さて、お子さん、お孫さんの読解力はいかほどだと捉えていらっしゃるでしょうか。また、そもそも読解力とはどんな力だと思われませんか？

まず、読解力の捉え方について考えてみましょう。一目瞭然なのは、「すらすら読めるか」です。読む速さは、一般的に大人は1分間に600字程度と言われます。小学生の場合は低学年が300字、中学学年が500字。音読の場合は、句読点や間が入りますから、上記の約7割、つまり、大人が420字、低学年が210字、中学学年が350字程度読める速さが標準となります。(試しにやってみてください。)

次に、読む速さ以外の捉え方です。これはなかなか難しいですね。家庭学習に付き添われて、宿題プリント等を解いている様子を見たら、何となく捉えられるかもしれません。テストの結果を見ても(国語の単元テストの点数だけでは)的確には分からないと思います。答えがはっきりする算数等の教科と異なり、「文章を読み取る力」というのは、どうできた時に力が身に付いていると捉えるのか、姿形が漠然としているために見取ることが困難と言えます。

読解力は想像力

では、読解力とはどんな力かを考えてみましょう。次の文章から、何を読み取ればよいのでしょうか。

わたしはいつもおばあちゃんと遊んでいます。散歩に行ったり畑で野菜を育てたり、トランプや料理もします。いつも一緒なのです。

そんなおばあちゃんが、体調を崩して先週から入院をしています。コロナのためにお見舞いに行くこともできず、もう1週間もおばあちゃんの顔を見ていません。入院しているのに変だけど、おばあちゃん、元気かなあ…。

ア わたしはいつも誰と遊んでいますか？

イ 何をして遊んでいますか？

ウ なぜ見舞いに行けないのですか？

エ わたしはおばあちゃんのことをどう思っていますか？

オ わたしはこの文章で何を伝えたいのでしょうか？

ア～ウの問いは、読めば書いてあることなので、一問一答で済みます。エ、オはどうでしょうか。解答者の言葉の使い方によって、様々な答えが予想されます。エ、オともに書いてあることから「元気かなあ…」と答える人もいるでしょう。

しかし、「いつも遊んでいる」「いつも一緒」「お見舞いに行くこともできず」「顔を見ていません」などの言葉を根拠

に、「おばあちゃんのことが大好き」「おばあちゃんのこと心が配てたまらない」「おばあちゃんに早く会いたい」などと答える人もいるでしょう。文章を読み取る力は、「書いてあること」ではなく、書いてあることから「分かることを想像する力」と言えます。

想像力を磨くために

重要なことが一つあります。後者のように想像を広げて読むことができるようにするためには、「必要なこと」があります。換言すると「想像力を磨くために必要なこと」です。

いったいそれは、何でしょうか？

先程の文章で考えると、「おばあちゃんのこと好き」とか、「〇〇が心配」「□□に会いたい」という感情に共感できるかということ、つまり、そういう感情を抱いた経験があるかということです。(おばあちゃんがいらないから、無理)、(うちは当てはまらない)などと、見切らないでください。

人間、そう様々な経験はできないものです。ましてや、子ども達は知識も経験も少ないのに、日々多くの文章に触れているのが現状です。「子ども達に豊かな経験や体験活動をさせましょう」と言われるのは、こうしたことが理由の一つになっています。また、「読書をしましょう」というのも、語彙力を高めるだけでなく、不足しがちな実体験や知識を本の世界で補うことができるという効果を期待してのことです。



【自分で帰る準備中】

想像力は思いやりの心にもつながる

巷では、ヘイトスピーチ、SNSでの誹謗・中傷などが問題になっています。心が痛みます。いじめ(ハラスメントを含む)も学校のみならず、大人社会においても依然として無くなりません。そもそも人間のもつ弱さ(妬み、嫉み等)に起因するものですが、思いやりの心は人間ならば絶対に大切にしたい、育てたいところです。

私は、職業柄、文章を読んだり書いたりすることが多く、苦しんだこともありますが、今思うと、幸いだったと考えています。文章を読み取るとする作業は、例えば物語文では「なぜこの人物はこうしたのか」などと、その背景や心理を深く想像します。これって、人の心を思い遣ることにすぐくつながっているかと、感じています。マニュアルどおりに接客して相手の気持ちに寄り添おうとしない店員、客がいらないからといって商品を粗末に扱う動画をアップして仲間と面白がっている店員…、少し考えれば分かるだろうに、想像力の欠けた安易な思考に首を傾げてしまいます。

次号は、本校児童生徒の課題「読書に親しむこと」を話題にします。本校に限らず、スマホ等のICT機器の普及で、「読書離れ問題」が、今、再浮上してきています。お家の方は読書されますか？



【暑い中シシバーさんの作業】